

第9章 移動タンク貯蔵所の基準(危政令第15条)

第1 移動タンク貯蔵所の区分

「積載式移動タンク貯蔵所」とは、移動タンク貯蔵所のうち移動貯蔵タンクを車両等に積み替えるための構造を有するものをいう。したがって、移動貯蔵タンクを車両のシャーシフレームにUボルト等により緊結したもので、積替えるためのつり金具、フォークリフトポケット等を備えていないものは、積載式移動タンク貯蔵所に該当しない。(H11 危14、特34)

第2 移動タンク貯蔵所の位置、構造及び設備の技術上の基準

1 移動タンク貯蔵所(第1項)

「移動タンク貯蔵所の位置、構造及び設備の技術上の基準に関する指針」(S48 予45)によるほか、次によること。

(1) 常置場所(第1項第1号、第2項から第5項)

ア 既許可の移動タンク貯蔵所の常置場所と同一の場所を常置場所とすることはできないこと。ただし、新しい移動タンク貯蔵所の完成検査までに既許可の移動タンク貯蔵所を廃止又は転出させる場合は、この限りでない。

イ 常置場所には、移動タンク貯蔵所の常置場所である旨を表示した揭示板を設けるよう指導すること。

ウ 屋外及び屋内の常置場所には、移動タンク貯蔵所の周囲に0.5メートル以上の幅の空地を有するよう指導すること。なお、複数の移動タンク貯蔵所を設置する場合、それぞれの移動タンク貯蔵所の周囲に設ける空地は相互に重ならないようにすること。

エ 常置場所は、建築物等の可燃性の部分及び火気を使用する箇所から火災予防上安全な距離をとるよう指導すること。ただし、防火上有効な塀がある場合は、この限りではない。

(2) 移動貯蔵タンクの構造(第1項第2号)

タンク鏡板にマンホールを設けることはできない。(S55 危155)

(3) 注入ホース、配管等(第1項第15号)

ア 配管に設けるサイトグラスは、火災予防上安全なものは認めることができる。(S57 危39)(S57 危49)(H13 危24)

イ 吐出口に給油ホースの結合金具として、ワンタッチ式カップリングの使用は認めらる。(S55 危53)(S56 危42)

ウ 小分けを目的とする給油ホースの長さに定めはないが、必要最小限の長さにとどめるよう指導すること。(S52 危59)

エ ボトムローディング方式(充填所での危険物受け入れ時にタンク上部でなく、吐出口及び底弁から受け入れる方式)の移動タンク貯蔵所の構造は、「移動タンク貯蔵所への危険物注入設備の構造及びそれに伴う移動タンク貯蔵所の構造」(S57 危15)によること。

オ 動植物油類を貯蔵及び取り扱う場合、危政令第23条を適用し、蒸気による加熱配管を設けることができる。

なお、当該配管は危政令第9条第21号イの水圧試験の例により水圧試験を行うよう指導すること。(S52 危37)

(4) 表示設備(第1項第17号)

危険物の類、品名及び最大数量を表示する設備は、その内容を鏡板に直接記入することで認められる。(H11 危64)

ア 複数の危険物を貯蔵する移動タンク貯蔵所において、その危険物のうち最も比重の小さいものを最大量貯蔵できるように(空間容積が5パーセント以上10パーセント以下の範囲に入るよう確保する。)タンクを製作した場合は、次によることができる。(H10 危90)

- (f) 当該危険物より比重の大きな危険物を貯蔵する場合には、道路運送車両法上の最大積載量の観点から空間容積が10パーセントを超えるタンク室が生じる。
 - (g) 許可に係る指定数量の倍数は、指定数量の倍数が最大となる危険物の貯蔵形態について算定する。
 - (h) 移動貯蔵タンクの側面枠及び接地角度計算において用いる貯蔵物重量は道路運送車両法の最大積載量を用いて算定する。
- イ 圧送ポンプ、容器詰め替え用のホース、ノズル等は、引火点40度未満の危険物のみを貯蔵する移動タンク貯蔵所には設けることはできない。ただし、引火点40度未満の危険物と引火点40°C以上の危険物を、同時に又は交互に貯蔵する移動タンク貯蔵所においては、設けることができる。(引火点40度未満の危険物に当該ポンプ等を使用することはできない。)

(5) ポンプ

- ア ポンプの動力源として、車の動力源を使用しない積載式エンジンを設けることは認められず、外電から受電して使用する火災予防上安全なモーター及びポンプを設けることは、認められる(引火点40度以上の危険物に限る。)(S51 危71)(S53 危62)
- イ 被けん引車形式の移動タンク貯蔵所にポンプを設けるときは、けん引車側にポンプを設ける等火災予防上支障のある場合は認められない。(S57 危54)(S58 危124)

(6) 安全装置

安全装置のパッキンの材質としてコルク又は合成ゴム(耐油性を有するものに限る。)を使用することができる。(S46 予1)

(7) その他

- ア 混油防止装置を取り付ける場合は、次によること。(S56 危109)
- (f) 底弁は手動閉鎖装置の閉鎖弁と一体となっていること。
 - (g) 手動閉鎖装置の閉鎖弁は送油する時以外は閉鎖されていること。
 - (h) 電気配線関係は防爆を考慮したものを使用し、機器は防水型の箱に収め、各スイッチはアークの発生しない構造とすること。
 - (i) 当該装置を取り付けても目視等による定期点検を行うことができること。
- イ 防護枠の後部に、後方確認用のカメラを設置する場合は、次によること。(H1 危64)
- (f) 可燃性の蒸気が滞留するおそれのある場所に設ける場合には電気設備は防爆構造とすること。
 - (g) 当該カメラを設置することにより防護枠の強度に影響を与えないものであること。
- ウ バキューム式の移動タンク貯蔵所は、次によること。
- (f) 積載できる危険物は、引火点70度以上の廃油に限ること。(S52 危59)
 - (g) 減圧装置の配管及び配管の継手は、金属製のものであること。ただし、緩衝用の継手は、耐圧、耐油性を有するゴム製のものを用いることができる。
 - (h) 移動貯蔵タンクには、一定量に達すると自動的に弁が閉鎖する装置(吸上自動閉鎖装置)を設けるものとし、かつその旨を知らせる設備を容易に覚知できるよう設けること。
 - (i) ホースの先端には、石等の固形物が混入しないよう網等を設けること。

2 積載式移動タンク貯蔵所(第2項)

(1) 許可の件数、対象、コンテナの積み替え等

「積載式移動タンク貯蔵所の取扱いに関する運用基準」(H4 危 54)によること。

(2) 位置、構造、設備の基準

「移動タンク貯蔵所の位置、構造及び設備の技術上の基準に関する指針」(S48 予 45)によること。

(3) 国際輸送用のタンクコンテナ

国際輸送用のタンクコンテナを車両に積載する移動タンク貯蔵所については、「国際輸送用積載式移動タンク貯蔵所の取扱いに関する運用基準」(H13 危 50)、「国際輸送用積載式移動タンク貯蔵所に関する許可等に係る資料の送付について」(H4 危 93)によること。

3 航空機又は船舶の燃料タンクに給油する移動タンク貯蔵所(第3項)

「移動タンク貯蔵所の位置、構造及び設備の技術上の基準に関する指針」によること。(S48 予 45)

4 国際海事機関が採択した危険物の運送に関する規程(IMDGコード)に定める基準に適合する移動タンク貯蔵所(第5項)

(1) 「移動タンク貯蔵所の技術上の基準等(IMDGコード型タンクローリー車、運搬要員の確保関係)に係る運用について」によること。(H16 危 35)

(2) IMDGコードにおいてタンクの諸元毎に定められている適応する危険物に係る規定について適合すること(H25 危 25)

第3 移動タンク貯蔵所の貯蔵及び取扱いの技術上の基準

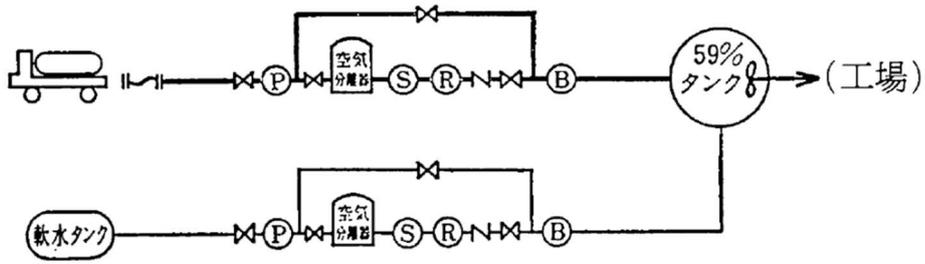
1 移動タンク貯蔵所による危険物の移送を行う場合においても、法第10条第3項に規定する貯蔵及び取扱いの基準に適合すること。(S59 危 19)

2 移動タンク貯蔵所から引火点が40度以上の第4類の危険物を、注入ホースの先端部に手動開閉装置を備えた注入ノズル(手動開閉装置を開放の状態に固定する装置を備えたものを除く。)により自動車等の燃料タンクに直接危険物を給油する行為は、同一場所における給油量が指定数量未満の場合に認められる。(H2 危 105)

3 容器に収納された危険物を、車体に固定された専用ケースで運ぶことについて、移動タンク貯蔵所は移動貯蔵タンクによる移送が一義的な形態であるが、同時に移送している危険物との関連性や数量等によっては認められる場合もあること。(H14 危 29)

4 例図1のように、予め水を入れてあるタンクに移動タンク貯蔵所からエチルアルコールを注入して混合する場合、また、例図2のように、移動タンク貯蔵所及び水タンクから同時にポンプ設備を使用して配管中において混合する場合について、これらの形態のように、危険物の取扱い工程(混合・希釈)の一部に移動タンク貯蔵所が組み入れられ使用されることは、移動タンク貯蔵所の貯蔵に伴う取扱いとは解されないため、認められない。(S56 危 83)

例図1



例図2

